

## 核兵器禁止条約第3回締約国会議

平和首長会議代表団代表（香川事務総長/オーナイ・ハノーバー市長）スピーチ

## 【香川事務総長】

核兵器のない世界の実現に向けて尽力されている国や市民社会の代表が集うこの会議において、平和首長会議に発言する機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。平和首長会議事務総長の香川剛廣と申します。

今回、広島、長崎の両市長が、新年度の予算編成を議論する市議会に出席しなければならないため、やむを得ずこの会議を欠席しておりますが、平和首長会議は本条約を極めて重要視しています。

昨年、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞され、被爆地広島、長崎の被爆者、市民は受賞を喜ぶとともに、核兵器廃絶のための活動への決意を新たにされています。この受賞は、核兵器使用がもたらす壊滅的な人道的結末に対する認識が高まり、核兵器禁止条約など、核兵器の使用を容認しない強力な国際規範が形成されていく大きな文脈の中で、ヒバクシャが被爆の実相を世界に伝える献身的な貢献を行ってきたことが評価されたものであり、核保有国を含む国際社会全体に「核兵器の使用は決して許されない」というメッセージを改めて示しています。

今回は、両市長に代わり、これまで長く平和首長会議の副会長を務めているドイツ・ハノーバー市のベリット・オーナイ市長が平和首長会議を代表して、スピーチをさせていただきます。

## 【オーナイ市長】

香川事務総長、ご紹介ありがとうございます。ハノーバー市長のベリット・オーナイです。平和首長会議副会長都市である本市とその会長都市である広島市は、当会議の活動や姉妹都市連携をはじめとして長年にわたる協力関係により、深い絆で結ばれており、今回、平和首長会議を代表して発言させていただくことに感謝いたします。

さて、我がハノーバー市は、第二次世界大戦中、通常兵器によって甚大な被害を受けた経験がありますが、今日の多くの紛争でも、同じように都市が破壊され、一般市民が大きな犠牲を払っています。そして、ウクライナ戦争においては、核兵器による威嚇さえ行われました。大国によって国際法が侵害され、安全保障は棚上げされ、世界的な軍備増強が始まっている今、危機と脅威は増大の一途をたどっております。

軍縮と安全保障の基盤は、国連憲章に謳われているように、集団的安全保障のシステムが機能するべきところですが、現在は、明らかに、規律を基盤とした秩序から、強者の力が支配する世界へと向かいつつあります。こうした緊張の高まりは、核兵器がより安全な世界をもたらすという考え方につながる可能性があり、直接的であれ、拡大抑止であれ、核抑止による保護を求める国もあります。しかしながら、核抑止により、核戦争が起これなかったという証拠はどこにもなく、むしろ人類を高い危険にさらしているのです。こうした危険を回避する唯一の方法は、核兵器廃絶を視野に入れた核軍縮であり、核兵器禁止条約はまさにこの目標を達成するための道を切り開いたのです。

都市のネットワークである平和首長会議は、40年以上にわたり、核兵器廃絶を目指し活動を行ってきました。都市外交は、地方レベルでの国際交流・協力の場を切り開くものであり、今回、このような発言の機会を得て、国際政治の場で、市民が抱えている懸念の声をお伝えすることができます。本市は幅広い広報活動、国内外でのロビー活動、青少年交流などの若い世代の教育の場を通じて平和首長会議の活動を支援しており、また広島市の姉妹都市として、平和に対し特別な責任があると強く感じています。

我々平和首長会議は、約8,500の世界中の加盟都市とともに、これからも平和文化を推進していきます。

我々は、全ての国が核兵器禁止条約を批准し、誠実な対話を通じた紛争の平和的解決へと外交政策を転換するよう求めます。ありがとうございます。